

伝

大洲 坂本龍馬と

坂本龍馬の脱藩は大洲市を通過したという説が有力だ。脱藩前夜に高知県梶原町的那須俊平・信吾父子の家に泊まり、四国を旅立つ際には、大洲市長浜の商人・富屋金兵衛を頼った。つまり、多くの盟友の助けが得られるルートを選んだのだ。

脱藩の一步は大洲の地に
屋根付き橋のためと

大洲市河辺地区。肱川の支流の一つである河辺川の上流に位置するこの地域は、四方を山々で囲まれている。日本の原風景を思わせる集落には、浪漫八橋と名付けられた屋根付き橋が点在している。そもそも屋根付き橋は、住民の生活道路としての役割に加え、農作物や薪、炭、農機具の保管場所としても活用されていた。また、神社の参道に掛けられた屋根付き橋は、いにしえ人の深い信仰心から生まれたとされている。さらに四国には、お遍路さん

Sakamoto Ryoma and Ozu

There is a widely accepted theory that Sakamoto Ryoma passed through Ozu while fleeing his native Kochi Prefecture.

He is said to have spent the night before leaving in the home of father and son Shunpei and Shingo Nasu in the town of Yusuhara-cho, Kochi Prefecture.

Upon leaving the island of Shikoku, he then sought the assistance of Tomiya Kinbee, a merchant in Ozu's Nagahama district.

In short, Sakamoto chose to follow a route that allowed him to benefit from the aid of many sworn allies.

を温かくもてなすお接待の習慣がある。往来する旅人が橋の上で雨露をしのげますように、との優しい思いを橋に込めているのだという説もある。

浪漫八橋の一つ、御幸の橋のためには「坂本龍馬の通りし道」という石碑がひっそりと建っている。御幸の橋は、もともと天神社が創設された安永2年(1773)に架設された橋で、何度か架け替えられている。現在の橋は、明治19年につくられた。杉皮葺きの屋根にケヤキ材を使い、釘を一切使用していない橋は、独特の趣と風格に満ちている。

国境を越え伊予へ

坂本龍馬は、文久2年(1862)3月24日、28歳の時に才谷屋(生家の屋号)の守護神である高知市の和霊神社で水杯を行い、高知県の梶原から伊予長浜まで自由を求めてひた走った。脱藩ルートについては諸説あり、その一つが梶原町的那須信吾宅から国境の宮野々関を越え、土佐と伊予の国境である榎ヶ峠、泉ヶ峠、宿間を経て、伊予長浜より船に乗り込んだという道筋だ。泉ヶ峠は大洲市河辺と内子町五十崎の間にある峠だ。従って、新しい時代を拓かんとした龍馬の、志に満ちた最初の一步は、伊予国・大洲に刻まれたことになる。

全国から集う龍馬ファン

近年、龍馬の脱藩ルートをたどる龍馬ファンが増えている。その火付け役となったのは、平成元年、旧河辺村で始まったイベント「わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」だ。かつて龍馬が歩いた河辺の山道を踏破するというシンプルながら催しながら、毎年の老若男女が集まってくる。遠く県外から足を運ぶ龍馬ファンも多く、河辺ののどかな自然に励まされながら過酷な道を進んでいく。また、「わらじで歩こう」イベントの前夜祭やミニウォークなども開かれるようになり、今や河辺は龍馬ファンにとって一度は訪れたい場所の一つになった。



うっそうと生い茂る木々に囲まれた御幸の橋



河辺川に架かっていた橋を移設した豊年橋



秋滝竜王神社に通じる道にある龍王橋